

佛教学セミナー

総目次

(第二十一号・昭和四十年五月より)
(第二十二号・昭和五十年五月まで)

第一号 (昭和四十年五月)

大乘佛教について

山口 益

—その精神史観への二試攷—

天台法界観の系譜

安藤 俊雄

鎌倉末—南北朝の唯識宗

富貴原章信

『往生要集』の思想的意義

坂東 性純

煩惱障所知障と人法二無我

舟橋 尚哉

中国佛教への道しるべ

横超 慧日

ウイーンインド学研究所の近況

雲井 昭善

インド・ビハール州立四研究所の現状(一)

—ナランダー・パリー研究所—
長崎 法潤

第二号 (昭和四十年十月)

佛教における有形なるものと無形なるもの(一七)—佛教学と真宗学との接点—

舟橋 一哉

祭祀とブツダの主張

雲井 昭善

弥勒と阿逸多

望味四十三 校部

建

梁代二諦思想の特質

福島 光哉

—僧肇の二諦説との関連について—

中国佛教への道しるべ(2)

横超 慧日

第三号 (昭和四十一年五月)

佛教における有形なるものと無形なるもの(一八)—佛教学と真宗学との接点—

舟橋 一哉

律蔵にあらわれたる佛伝の宗教性について

佐々木教悟

佛教の現実的性格

安井 広濟

—無常・無我・空の思想の意味するところ—

大乘における相即の論理の内景

鍵主 良敬

—煩惱即菩提の思想について—

横超 慧日

中国佛教への道しるべ(3)

—ミティラ研究所、ジャヤーアスワール

研究所、ヴァインヤリ研究所—

長崎 法潤

ルイ・ド・ラ・ヴァレー・ブーサン教授
についての略述

大谷大学佛教学研究室訳

第四号 (昭和四十一年十月)

華嚴經における寂滅道場と祇園精舎

—法蔵の解釈を主として—

山田 亮賢

チベット中世初期における般若中觀論書の訳出(上)

稲葉 正就

所引の経論を中心にした中觀宝燈論の考察(二論章一)

荷葉 堅正

竺道生の般若思想

三桐 慈海

涅槃經中の本有今無偈について

張 曼濤

第二回エドワード・F・ギラヒュー

世界宗教会議に参加して

坂東 性純

第五号 (昭和四十二年五月)

四十余年未顕真実の意義 横超 慧日
チベット中世初期における般若中観論書
の訳出(下) 稲葉 正就

智慧から慈悲への動向 小川 一乘

——如来藏(佛性)思想の本意——

* * * * *

インド佛教への道しるべ(1) 舟橋 一哉

——原始佛教——

欧米でみた日本人留学生 佐々木現順

* * * * *

佛教学の方法論についての覚え書

上田 義文

第六号 (昭和四十二年十月)

宗教と民族性(上) 佐々木現順

光胤の唯識思想 富貴原章信

華嚴における佛の光明について(上)

鍵主 良敬

* * * * *

インド佛教への道しるべ(2) 舟橋 一哉

——アビダルマ佛教——

国際東洋学者会議に出席して

桜部 建

チベット佛典について

山口 益

第七号 (昭和四十三年五月)

佛教学研究について 水野 弘元

宗教と民族性(下) 佐々木現順

華嚴における佛の光明について(下)

鍵主 良敬

南条文雄先生 雲井 昭善

——近代佛教学研究の先駆者——

フランス佛教学・日本学についての雑感

白土 わか

インド佛教への道しるべ(3) 安井 広済

——中観佛教——

第八号 (昭和四十三年十月)

恵心僧都と四明知礼(上) 安藤 俊雄

——趙宋期における日中天台の交流——

根本説一切有部における帰依三宝につい

て 佐々木教悟

源信の教・観の性格について

——『観心略要集』を中心として——

撰大乘論における声聞乘のアーラヤの異

門 片野 道雄

常盤大定先生 横超 慧日

——中国佛教学史研究の大成者——

佛教における体系と創造 玉城康四郎

第九号 (昭和四十四年五月)

懺悔について 山口 益

恵心僧都と四明知礼(下) 安藤 俊雄

——趙宋期における日中天台の交流——

狂言綺語について 白土 わか

ドクトル渡辺海旭 桜部 建

——真に学を愛した「現代的佛者」——

インド佛教史への道しるべ 佐々木教悟

ワシントン大学のインド学 一郷 正道

「華論研究」に見えたる慧達序の読み方
に対する私見 神田喜一郎

第十号(昭和四十四年十月)

真空妙有 舟橋 一哉

——佛教学と真宗学との接点——

プラマーナ・ザールテイカ為自比量章の

順位 長崎 法潤

僧叡の研究(上) 古田 和弘

佐伯定胤老師 富貴原章信

——法隆寺の故和上を偲んで——

インド佛教への道しるべ(4) 安井 広済

——唯識佛教——

第十一号(昭和四十五年五月)

浄土について 山口 益

A・J・トインビーの佛教観 桜部 建

十随念の成立過程 吉元 信行

僧叡の研究(下) 古田 和弘

インド佛教への道しるべ(5) 佐々木教悟

——戒律佛教——

ホンコン・タイワン佛教学への望蜀の言
旅行記——現代世界の佛教に寄せる関心—— 佐々木現順

坂東 性純

過去佛思想について 宮坂 有勝

积尊における対機説法 舟橋 一哉

第十二号(昭和四十五年十月)

有漏の分別智について 鍵主 良敬

——一人と一人との対話——

——華嚴学への一試論——

慧均撰四論玄義八不義について(1) 三桐 慈海

——大乘玄論八不義との比較対照——

菩提心について 平野 修

——初歡喜地の問題——

原始佛教研究の道しるべ(1) 佐々木現順

モンゴル・ソ連の佛教事情 坂東 性純

第十三号(昭和四十六年五月)

劉宋慧観の法華経観 横超 慧日

実相の世界 安井 広済

——龍樹における空の論理の考察——

念佛の象徴性 坂東 性純

八識思想の成立について 舟橋 尚哉

——楞伽経の成立年時をめぐって——

佛教にみられる Bhakti の影響 渡辺 顕信

原始佛教研究の道しるべ(2) 佐々木現順

第十四号(昭和四十六年十月)

人間の存在の構造(1) 佐々木現順

——生と死——

「Papers of Th. Stecherpatsky」を一読 荷葉 堅正

して 大崎 昭子

唯識二十論における artha に ついて 八木 信佳

楞伽宗考 舟橋 一哉

赤沼智善先生 堅実なる学風の人 舟橋 一哉

——堅実なる学風の人——

ベルンハルト博士の客死を悼む 佐々木現順

日本民族性と佛教の発展(1) 鈴木 大拙

第十五号 (昭和四十七年五月)

人間の存在の構造(2) 佐々木現順

——生と死——

初期パトリ佛典に見える「疑」の語について 椋部 建

法華玄義の教相論 福島 光哉

智顛の佛性思想 大野 栄人

日本民族性と佛敎の発展(2) 鈴木 大拙
円頓戒の根本問題 恵谷 隆戒

第十六号 (昭和四十七年十月)

初期佛敎の業思想について 舟橋 一哉

——相応部の一經典の解釈をめぐって——

人間の存在の構造(3) 佐々木現順

——生と死——

梵網經の形態 白土 わか
「大乘」における佛敎の全的把握のため
——入中論第一章第一〜四偈——

法雲の佛身説 小川 一乗
木村 宣彰

チベット文献研究への道しるべ(1)

稲葉 正就

日本民族性と佛敎の発展(3) 鈴木 大拙

第十七号 (昭和四十八年五月)

佛身觀の思想史的展開 山口 益

プラマーナ・ミーマンサーの意味
——Pāṇ. 1.5-1.27を中心として——

大乘玄論の八不義 長崎 法潤

——慧均撰八不義について(2)—— 三桐 慈海

第五・第六菩薩地に対する世親註の骨格 平野 修

佐々木月樵先生
——近代の敎学を荷負した情熱の人——

ハンブルク大学の印度学敎育 山田 亮賢

日本民族性と佛敎の発展(4) 鈴木 大拙

第十八号 (昭和四十八年十月)

初唐 法宝の佛性説について 富貴原章信

佛敎における僧伽の基本的理念について 佐々木教悟

如来性起經典の怪 鍵主 良敬

——その正体をめぐる常盤・高峰説への
疑義——

中辺分別論(險岬)の和訳並びに研究(1) 舟橋 尚哉

無性の学流について 片野 道雄
——チベット訳をテキストとして——

第十九号 (昭和四十九年五月)

中国佛敎研究法私見 横超 慧日
——特に初歩の学生諸君のために——

入楞伽經にあらわれる人法二無我の敎説
について 安井 広済

無色界とさとり 坂東 性純

中辺分別論(險岬)の和訳並びに研究(2) 舟橋 尚哉

チベット文献研究への道しるべ(2) 稲葉 正就

続 佐々木月樵先生
——近代敎学を荷負した情熱の人——

第二十九回パリ国際東洋学者会議に加わ
って 佐々木現順

第二十号 (昭和四十九年十月)

- 業に関する若干の考察 水野 弘元
- 律蔵とカルマン 平川 彰
- 佛教における業論展開の側面 舟橋 一哉
- 原始佛教からアビダルマ佛教へ——
- 業論の本質 佐々木現順
- 功德を廻施するという考え方 野々目 了
- 原始佛教における帰依と業 吉元 信行
- 南方佛教の業思想 山口 益
- 成業論の原典に対する一疑問 安井 広済
- 『中論』第十七章「業と果の考察」の研究——
- 佛性の業 小川 一乘
- 厭離穢土・欣求淨土——
- 中辺分別論における煩惱と業 舟橋 尚哉
- 苦薩行としての業 片野 道雄
- 撰大乘論無性註第二章第三十四節解説——

成佛の道と業

- 般若経と涅槃経を中心に—— 横超 慧日
- 華嚴における業性の論理 鍵主 良敬
- 天台止観と業相 福島 光哉
- 業報説の受容と神滅不滅 木村 宣彰
- 『往生要集』における業思想 坂東 性純
- 日本靈異記における因果応報思想 白土 わか
- とくにその系譜について——
- 親鸞聖人の業思想 稲葉 秀賢
- 親鸞における宿業の問題 幡谷 明
- インド思想と業 雲井 昭善
- 序章——
- マハーヴィーラの業説 長崎 法潤

第二十一号 (昭和五十年五月)

- 佛教経典現代語訳の諸問題 桜部 建
- 永久年中書写出家作法について 白土 わか
- 浄土の意義について 三桐 慈海

中辺分別論(障品)の和訳並びに研究(3)

- E・フラウワルナー博士の逝去を悼む 雲井 昭善
- 現代中国の佛教事情 富沢 慶栄
- 佛教の基本的な立場について 舟橋 一哉
- 親鸞の「主上臣下背法違義」と 積尊の「依法不依人」との関連性を求めて—— 桜部 建

* 書評などの短文は省略した。